

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 1	取組 名称	京都名所記の誕生 －京都府立総合資料館所蔵古典籍の活用と「国際京都学」へのアプローチ－
研究代表者：	文学部 (研究科)	職・氏名：	教授・藤原 英城
研究担当者：	<p>京都府立大学 (藤原英城、赤瀬信吾、山崎福之、母利司朗、安達敬子、小松謙、林香奈、岸本恵実、鳴海伸一、東昇、上杉和央、藤本仁文、野口祐子、大谷直輝、張凌志) 外部分担者・協力者 (李婷、井口和起氏、松田万智子氏、若林正博氏、岡本隆明氏ほか)</p>		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府立総合資料館		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>○『洛陽名所集』と『京童』との比較研究・国際発信をめざして</p> <p>京都府立総合資料館所蔵の『洛陽名所集 (山城名所記)』 (山本泰順著 万治元 [1658] 年八月刊、後印本) は、同年七月に出版された『京童』 (中川喜雲著) とともに京都名所記 (ガイドブック) の誕生を示す記念碑的な作品です。</p> <p>本研究では、『京童』との比較研究の基礎段階として、前年度ACTRにおいて取り扱った『京童』の各名所 (「さんねん坂」「清水」「上賀茂」「下鴨」「宇治」「鞍馬」「嵐山) に対応する『洛陽名所集』の記事をピックアップしてその注釈を施しました。さらにその内容を国内のみならず海外の人々にも知っていただくために、現代語訳を施すと同時に、英語・中国語訳も併せて試みました。また、『洛陽名所集』の「宇治」の記事に引用される茶書 (お茶についての文献) に関する漢籍研究、歴史学からの名所学へのアプローチなど、ユニークな個別調査も行いました。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>○「国際京都学」と古典籍研究ならびに隣接諸学問・異業種との融合</p> <p>『洛陽名所集』や『京童』を通じての古典籍や古典文学への興味が身近な名所への関心や地域の地理的環境のみならず、心の原風景とも言い得るようなさまざまな伝承や歴史、地域文化への愛着へと繋がることによって、府民視点での新たな「京都学」とも言うべき重層的で多様なアプローチの可能性が開かれましょう。本研究が宇治茶の生産者とのコラボレーションを招来して国際京都学シンポジウム「いっぷくどうどうす 一名所記と宇治茶の世界」へと発展したことなどはその好例と言えましょう。さらに研究成果の海外への発信を通じて、京都文化を海外の視点から見つめ直し、「国際京都学」としての多様な研究領域を構築する足がかりともなり得ましょう。</p> <p>こうした古典籍をひとつのツールとした京都文化の複合的研究とその国際的発信は豊饒な「国際京都学」へのアプローチの第一歩となることが期待されます。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際京都学シンポジウム「いっぷくどうどうす 一名所記と宇治茶の世界」 (平成27年3月7日 京都府立大学下鴨キャンパス・稲盛記念会館104講義室 参加者約200名 文学部主催)</li> <li>・Webサイト (<a href="http://www2.kpu.ac.jp/letters/hist_studies/meisyoki/symposium.html">http://www2.kpu.ac.jp/letters/hist_studies/meisyoki/symposium.html</a>) 開設</li> <li>・「京都名所記の誕生 ー京都府立総合資料館所蔵古典籍の活用と「国際京都学」へのアプローチー」 (平成26年度京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 研究成果報告書) 府大図書館、府立総合資料館などで閲覧可</li> </ul>			
<b>【お問い合わせ先】</b>		文学部 (研究科)	藤原研究室 教授 藤原英城
Tel: 075-703-5214		E-mail: h-fujiwara@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

府大ニュース（3月11日）より

## 国際京都学シンポジウム「いっぷくどうどす 一名所記と宇治茶の世界」が開催されました

[2015年3月11日]

### 国際京都学シンポジウム「いっぷくどうどす 一名所記と宇治茶の世界」

3月7日午後1時より、京都府立大学稲盛記念会館（下鴨キャンパス内）104講義室において、文学部主催による国際京都学シンポジウム「いっぷくどうどす 一名所記と宇治茶の世界」が開催されました。

当日は、200名ほどのご来聴者があり、立ち見が出るほどの盛況でした。また関連企画として催されました「抹茶と玉露の淹れ方体験講座」や宇治茶レディーによる宇治茶の振る舞いなども大変好評でした。



### シンポの内容

総合司会 東昇（京都府立大・准教授〔歴史学科〕）

〔挨拶・主旨説明〕

渡邊伸文学部長による開会挨拶ならびに文学部独自の国際京都学への取り組みの様子が紹介され、続いて本シンポジウムの研究母体となった ACTR「京都名所記の誕生 ー京都府立総合資料館所蔵古典籍の活用と「国際京都学」へのアプローチー」の研究概要やその背景について研究代表者の藤原英城教授が説明しました。

〔講演〕

1. 名所記の誕生 —『京童』と『洛陽名所集』—

藤原英城(京都府立大・教授〔日本・中国文学科〕)

・『洛陽名所集』の成立過程や作者山本泰順の経歴などをめぐって、『京童』との比較から、その対照的なあり方や出版物としての展開について解説がされました。

2. 名所が見える？東寺百合文書

岡本隆明(京都府立総合資料館・歴史資料課)

・東寺百合文書に散見される名所やお茶に関する記事を取り上げ、時代や人々の関心の程度によって景色の見え方が違ってくることが述べられました。

3. 中国の茶と『洛陽名所集』

小松謙(京都府立大・教授〔日本・中国文学科〕)

・『洛陽名所集』「宇治」で引用される中国の典籍や故事について解説がなされ、作者山本泰順の漢学者としての知識背景やその術学性について言及されました。

4. 宇治茶の歴史

橋本素子(光華女子大学・非常勤講師)

・宇治茶が中世以来の日本茶のトップブランドであり、抹茶・煎茶・玉露を誕生させた「日本茶のふるさと」とも称すべきものであることなどが報告されました。

5. 宇治の名所は茶畑だった —明治の欧米人のまなざし—

野口祐子(京都府立大・教授〔欧米言語文化学科〕)

・日本を訪れた明治期の欧米人による旅行記から、当時の宇治の茶畑としての景観や「ほんまもん」として宇治茶が評価されていたことなどが紹介されました。

6. コメント

上杉和央(京都府立大・准教授〔歴史学科〕)

・キーワードとしての古典籍や名所、また関連企画とのコラボなど、今回のシンポジウムを通じて身近な宇治茶を再発見するきっかけとなったのではとの総評がなされました。

〔挨拶〕

高石佳文京都府立総合資料館館長による閉会の挨拶ならびに国際京都学への資料館としての取り組みや本学文学部との連携などについての抱負が語られました。

宇治茶世界文化遺産登録プラットフォームのご協力もあり、いつになく華やかな雰囲気でのシンポジウムとなりました。ご来聴の皆様には満足いただけたご様子でした。